

## 5 地域社会のために

# 安心して暮らせる町にしていくために、 地域の人たちと協力して活動しています

わたしたちは、全国各地の事業所を通じて、地域社会に根ざした活動を行っています。認知症の人とご家族へのサポート活動のほか、「認知症カフェ」や「健康フェア」の開催、スポーツやイベントを通じた支援などをご紹介します。

## 「認知症サポーター」を養成して 認知症の人々の支援をしています

東邦ホールディングスは、2009年から厚生労働省の「認知症サポーターキャラバン」に参加しています。認知症サポーターキャラバンは全国キャラバン・メイト連絡協議会が運営し、自治体や企業などと協同で認知症サポーター養成講座の講師「キャラバン・メイト」を育成しています。認知症サポーター養成講座を受講すると「認知症サポーター」として認定されます。東邦ホールディングス全体では2019年4月末時点でのべ3,527人が講座を受講し、認知症サポーターとして認定されました。講座で身につけた知識に基づいて業務に取り組むほか、職場を離れたときもひとりひとりが地域住民の一員として、認知症の人およびご家族と積極的に接していくことを心がけています。

## 「どこシル伝言板」を通して 見守りの輪を広げています

認知症の人を見守る人々をもっともっと増やしたい。わたしたちはそのように考えて、「どこシル伝言板」(p18)を各自治体に提案しています。「どこシル伝言板」は、認知症の人の服や持ち物に貼られたQRコードを読み取るだけで、ご家族にメールが届くサービスです。だれもが負担を感じることなく、認知症の人とご家族の手助けをできます。「認知症の人を助けたいけれど、どう声をかけていいかわからない」という人も多いので、「声かけ訓練」の実施も始めました。

各自治体では、見守りの目を増やすべく、民間の事業所などと「見守り協定」を結んでいます。わたしたちの卸売事業は事業所を全国各地に配置し、地域に溶け込んでいます。各地域にすこしでも貢献できるよう、「どこシル伝言板」の導入自治体だけでなく、さまざまな自治体と見守り協定を結んでいます。これからも認知症の人やご家族が安心して暮らせるよう、見守りを続けていきます。

## 調剤薬局で認知症カフェを 開催しています

東邦薬品(株)の管理栄養士チームとファーマクラスター(株)

の調剤薬局は、認知症カフェを開催しています。共創未来古河南薬局(茨城県古河市)に続いて、2020年はOGP薬局荒川店(東京都荒川区)で「おくすりカフェ in OGP薬局」を始めています。荒川区地域包括支援センター、社会福祉協議会の協力を得て、認知症の人とご家族、また地域で認知症の人を支える方たちの活動をサポートしています。

認知症カフェでは、認知症についての理解を深めていただくために、薬剤師による認知症のお薬についての講話や、管理栄養士による予防のための栄養相談を実施しています。脳トレや折り紙、AIロボットによる体操などもとり入れて、毎月1回、飲み物とお菓子を食べながら楽しい時間を過ごしていただいています。地域に住んでいる方々がその人らしい生活をいつまでも続けられるように、多職種で連携することで適切なアドバイスを送れるように心がけています。このような活動が全国に広まるように引き続き努力してまいります。

## 各地の調剤薬局や老人ホームで 「健康フェア」を開催しています

(株)ファーマみらいでは、2016年から原則として年に1回各店舗または各エリアで「健康フェア」を開催しています。このイベントを始めたのは、処方せんを持っていないときでも気軽に調剤薬局を訪れて、セルフメディケーションのために薬局と薬剤師を活用してほしいと考えたからです。

店舗や地域の健康イベントにブースを出して、薬剤師がお薬相談を実施しています。「服用する薬を減らしたい」などの薬についての質問だけでなく、「こんなとき何科を受診すればいい?」などさまざまな質問が寄せられます。「お医者さんに聞きにくいことも相談できる」と好評をいただいています。

そのほか、管理栄養士による栄養相談や、さまざまな機器を用いた健康測定も行っています。健康測定では「血管年齢測定」「骨量チェック」「肌年齢測定」が人気です。測定の結果に合わせて、食事のアドバイスやサプリメントの提案もしています。ハンドクリームを用いたハンドケア講習も人気を集めています。健康イベントには多いところで2日間で500人が訪れます。

同様のフェアを介護老人保健施設でも開いています。また、地域包括支援センターの依頼に応じて管理栄養士がフレ

イル予防の講習会なども行っています(フレイルとは、加齢にともない心身の活力が低下した状態のこと)。

これからも「健康フェア」や日々の業務を通して、地域のみなさまの健康に寄与できるよう努力してまいります。



共創未来 市川薬局での「健康フェア」。  
左はハンドケア講習

健康イベントにブースを出店

### 募金型飲料自販機を通して 寄付を行っています

東邦ホールディングスは、1996年から認定NPO法人「ジャパン・カインドネス協会」が運営する募金型飲料自販機を導入しています。募金型自販機で飲料を買うと、購入金額のなかから1円と飲料メーカーから1円の合計2円が社会福祉団体などに寄付される仕組みです。自販機のボタンを指で押すことから、「ゆび募金」とも呼ばれています。

また、東邦ホールディングスの自販機総数は、2019年3月末時点で359台ですが、そのうちの204台が災害時にはお金を入れずに使用できる災害対応自販機です。

### エコキャップ回収活動に参加し、 その輪を広げています

東邦ホールディングスは、グループ会社、事業所、部署ごとにエコキャップ回収活動に取り組んでいます。本社、物流センター、営業所などから回収したペットボトルのキャップは、再資源化され、発展途上国の子どもたちへのワクチン購入費として活用されます。

上記以外のグループ内の事業所から回収された6,011個のキャップは、小学校などの各種団体へ寄付されました。

### 「スフィーダ世田谷FC」のパートナーとして 地域活動を進めています

東邦ホールディングスの母体である東邦薬品(株)は、1948年に東京都世田谷区で創業しました。以来、この地に本社を置き、世田谷区内でさまざまな地域活動に積極的に取り組んできました。2013年からは世田谷をホームタウンとする女子サッカークラブ「スフィーダ世田谷FC」のオフィシャルパートナーとして支援をスタートしました。

「スフィーダ世田谷FC」は2001年4月に「サッカーに対し熱く純粋な想いを持った女性へ最適な環境を提供すること」を目的として設立され、スポーツ活動を通じて地域社会へ参加し、良好なコミュニティを築くことをめざしています。これからも「スフィーダ世田谷FC」とともに、地域振興に貢献していきます。



「スフィーダ世田谷FC」

### 大学生ヘインターンシップの場を 提供しています

東邦ホールディングスは、大学生に対して医薬品卸売事業部門と調剤薬局部門でインターンシップを実施しています。医薬品卸売事業部門では、2018年度は文系・理系の学生16名、薬学部の学生6名が参加しました。調剤薬局部門では、2018年度は426名の学生が参加しました。



医薬品分割販売業務を見学する  
インターンシップの学生たち

### 演劇イベントへの協賛を通して 学生の文化活動を支援しています

東邦ホールディングスは、世田谷区の世田谷パブリックシアターが実施する舞台芸術普及プログラム「未来の舞台人を創る」に協賛しています。2018年度は15校の中学校・高校から60名の生徒を招待しました。また、杉並区の座・高円寺が実施する観劇プログラム「あしたの劇場・劇場へいこう！」に協賛しています。杉並区の公立28校の小学4年生2,672人を招待するとともに、一般来場者1,942人が観劇しました。

### チャリティープロジェクトに協賛して 障がい者の就労などに協力しています

わたしたちは「世田谷アートタウン」のイベント「フラッグリサイクルプロジェクト」に協賛しています。毎年、期間中に世田谷区の街路灯に社名などを記したフラッグ(旗)が掲げられますが、障がい者のみなさまの就労につながるように、世田谷区の福祉作業所に委託して、フラッグをエコバッグやトートバッグ、文房具入れにリサイクルしています。